

# 賛美の起源

## 詩篇95:1~6



95:1 さあ、主に向かって、喜び歌おう。われらの救いの岩に向かって、喜び叫ぼう。

95:2 感謝の歌をもって、御前に進み行き、賛美の歌をもって、主に喜び叫ぼう。

95:3 主は大いなる神であり、すべての神々にまさって、大いなる王である。

95:4 地の深みは主の御手のうちにあり、山々の頂も主のものである。

95:5 海は主のもの。主がそれを造られた。陸地も主の御手が造られた。

95:6 来たれ。私たちは伏し拝み、ひれ伏そう。私たちを造られた方、主の御前に、ひざまずこう。



## 賛美の力

2歴代誌20章には、神の民の指導者、ヨシャパテが強敵に直面した記事が出てくる。不安の中でヨシャパテは神に呼ばわった。

2歴代20:12 私たちの神よ、あなたは彼らをさばいてくださらないのですか。私たちに立ち向かって来た、このおびただしい大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしてはどうすればよいのか、分かりません。ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです

## ヨシャパテ王の命令

ユダの人々は全員、幼子たち、妻たち、子供たちも主の前に立っていた。その時、不思議な命令が出された。ヨシャパテは主の聖なる御名を賛美する聖歌隊を集め、出陣の先頭に立たせ、主を賛美するよう命じた。このような聖歌隊には、恐らく誰も参加したくはないであろう。これは全く自殺行為にも等しいと思われる命令であった。しかし、彼らはこの命令に従い、次のように歌った。

「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで」

## 賛美が勝利をもたらす

そして聖書は、さらに次のように語っている。

2歴代20:22 彼らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた。

今日の日本の教会も、強い多くの敵に直面している。教会ばかりでなく、クリスチャンが、クリスチャン・ホームが、強敵に直面している。

また、あなたは、今自分の人生に押し寄せて来る敵の力を感じておられるかもしれない。そしてその戦いのために神様の完全な武具を求め、それらを身につけて敵の前に立っておられるかもしれない。

そのようにして立ち向かいながら大切なことは、賛美が勝利をもたらす、ということである。



## 賛美の聖書的起源

ヨブ記38:4~7で、主は初めの賛美について語られた。

ヨブ記38:4~7 わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。あなたに悟ることができるなら、告げてみよ。あなたは知っているか。だれがその大きさを定め、だれが測りなわをその上に張ったかを。その台座は何の上にはめ込まれたか。その隅の石はだれが据えたか。そのとき、明けの星々が共に喜び歌い、神の子たちはみな喜び叫んだ。

神様の創造のみわざを見た天使たち、明けの明星の星々が、創造のみわざを喜び歌い、叫んだのであった。この個所によると、神様が地の基を定め、その大きさを定めた時、天使たちはこれを見て喜びのゆえに歌った。

「創造の不思議さ」は、天上の賛美の最も顕著な主題であった。

ダビデも詩篇の中で創造の力を賛美し、また黙示録においても、この力が歌われている幻が描かれている。イエス・キリストによって示された啓示と幻を書き記しながら、ヨハネは、天の御座にいる生き物と二十四人の長老たちが自

分の冠を御座の前に投げ出し、ひれ伏して次のように歌う歌を耳にした。

黙示録4:11 「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」

## 音楽は人類への贈り物

音楽は単に、天使たちが歌うためだけにあるのではない。なぜなら、音楽は人類に与えられたものである。創世記4:20~22には、人間が生きていくための大切な三つの職業が記されている。

創世記4:20~22 アダはヤバルを産んだ。ヤバルは天幕に住む者、家畜を飼う者の先祖となった。その弟の名はユバルであった。彼は立琴と笛を巧みに奏するすべての者の先祖となった。ツィラもまた、トバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる用具の鍛冶屋であった。

すなわち、第一に家畜を飼う仕事。第二に青銅、鉄のあらゆる用具の鍛冶屋。そして第三に

は、これらの二つの間に思いもかけない職業、すなわち、立琴を巧みに奏する音楽家が登場している。神様は、音楽は人間の大切な基本的な仕事の一つであるということ、私たちに語りになりたかったと思うのである。

現在のような物質的時代には、このことを理解するのは困難である。日本の大半の実業家は、人生には琴をひいたり、笛を吹いたりする時間などはとてもない、と考えている。

## 神をほめたたえる

しかし聖書は、音楽の定められた目的は、主をほめたたえることであると語っている。この世のマスメディアから流れる音楽は、失恋、自己憐び、孤独、セックス、改革、慕情が狂ったようなビートに乗って流れてくる、言葉の遊びである。

どうして賛美が、本来の、神様を心からほめたたえるという本質から外れて、このような音楽になってしまったのであろうか。

